

【指導法改善に向けての参考例（小学校外国語活動）】

単元名

Hi, friends ! 1 Lesson 9 What would you like? 「ランチメニューを作ろう」
第5学年 全4時間

ねらい

- 前半に「Input（聞く）」、後半に「Output（話す・会話する）」に重点を置くように単元を構成することにより、児童が英語表現のシャワーを十分に浴び、後半では自信をもって表現することができるようにする。
- 「Input」の部分では、教師の提示するスキットを見たり、ALTの発話を聞いたりするときに、内容を「推測する」ことや、日本語との音の違いへの「気付き」を大切にし、英語の音に十分に慣れ親しむことができる活動を意図的に設定する。
- 「Output」の部分では、対話形式のやりとりを積極的に設定し、テキストには掲載されていない郷土の食材や料理の名前を使うことで、工夫する楽しさを体験させ、さらに積極的に「伝えたい」という意欲を育てたい。

授業で伸ばしたい能力

1 コミュニケーション能力の素地づくり

本単元では、これまでに学習した“What do you want?”に代わる丁寧な言い方“What would you like?”の表現のよさに気付き、慣れ親しむことができるようにすることが目標の一つである。そのために、本単元の2時では、“What would you like?”を使うアクティビティを様々な形でを行い、最終的に、それを使って話す活動を取り入れる。聞いたことを受けて話し、相手に伝わる機会を増やすことで自信をもち、話してみたいという意欲がより高まるようにした。

また、単元の後半では、自分の作ったメニューを多くの友達と伝え合う活動を設定し、発表者の意図を理解しようとする場面を設定する。この活動により、「聞く」「話す」両方の体験をすることができ、伝え合う力を育てることができる。と考える。

単元全体をとおして、発話の際には、「B : Big voice, E : Eye-contact, S : Smile, T : Try」の4項目を表現活動の合言葉“BEST”として意識させ、気持ちのよいコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けることができるようにする。

2 思考力・判断力・表現力の育成

思考力・判断力・表現力を育成するために次の要素を意図的に設定した。

◇ 思考力

【第2時】スキットから、“What do you want?”と“What would you like?”の違いを推測する。

【第3時】地元の食材を生かしたメニューを考え、計画を練る。

◇ 判断力

【第2時】“What would you like?”が使われる場面を的確に判断する。

【第3時】メニューづくりに必要な食材を適切に選ぶ。

◇ 表現力

【第4時】自分のメニューをこれまで学習してきた表現を駆使して紹介する。

【授業のポイント】

- 5学年の最終単元であることから、1年間の学習の振り返りを意識し、児童の「聞きたい」「話したい」意欲を高めるようにした。
- オリジナルメニューづくりでは、自分の好きなものや地域の食材を生かして、特徴のあるメニューづくりを期待したい。家庭科との関連も図り、生活の中で、様々な食品を外国語で伝えてみたい意欲を育てたい。
- 前半の「Input」の部分では、多くの英語のシャワーを浴びさせ、英語のリズムや音に慣れ親しませたい。そのためには、HRTも積極的にクラスルームイングリッシュを使い、児童が慣れ親しむことができる雰囲気醸成したい。